緑区歴史散策マップ

桶狭間（おけはざま）古戦場コース

史誌「信長公記」から読み解く永禄3年（1560）織田信長×今川義元の戦い跡をたどる（名鉄有松駅～桶狭間古戦場公園：約2.5km）

① 高根山（たかねやま）

桶狭間の合戦の時、今川方の先陣松井宗信軍200、この地に着陣、織田方の佐々、千秋軍と激戦が行われた。

② 武路釜ヶ谷（たけじかまがたに）

中島砦より進撃してきた織田軍、この谷に潜み突撃の機会を窺っていた。

昭和初期の釜ヶ谷

③ 七ツ塚（ななつづか）

信長は義元を討ちとった後この付近に兵を集め勝鬨をあげ清洲に帰った。後、村人はこの東西に七つの穴を掘り戦没者を埋葬、塚として弔う。

④ 桶狭間古戦場公園［田楽坪（でんがくつぼ）］（おけはざまこせんじょうこうえん）

今川義元討死の場所（永禄3年5月19日）。昔からこの地を田楽坪と称している。「信長公記」によると、義元の討死の地は深田の傍の低地である。合戦より48年後の慶長検地は、この西側に約2町歩の本田の存在を示している。天保絵図では本田の中に田楽坪を明示している。慶長7年編の「中古治乱記」は合戦の地を田楽坪としている。

明治初期の田楽坪

イ.義元馬つなぎのねず

合戦の時、義元が馬をつないだ「ねず」といわれ、この木に触れると熱病に罹るとの伝承がある。

ロ.義元の墓

苔むした駿公墓碣があるが、その建立年は不明である。

他に義元公水汲みの泉あり

⑤ おけはざま山

桶狭間古戦場公園の東の道を行くと左側丘陵で現在は住宅化している。150m位歩くと左へ登る道がある。登りきった頂きからは古戦場地帯が一望できる。この付近が「信長公記」にある「今川義元おけはざま山に人馬の息を休めこれあり」と、指摘する処である。右記の写真は、大正後期、北方の武路より撮ったもので、その中央部より少々西に本陣が置かれていたようである。ここから周囲を展望すると「信長公記」の「おけはざまと云うところは、はざまくみて深田足入れ、高みひきみ茂り、節所（難儀）と云う事限りなし」の述懐が実感として想起される。

⑥ 瀬名氏俊陣地跡（せなうじとしじんちあと）

合戦の2日前、今川軍の先発として、瀬名氏俊200、ここに着陣18日に村人を使って桶狭間山に、翌5月19日の総大将義元の昼の休息陣地を構築した。

⑦ 長福寺（ちょうふくじ）

文7年（1538）草創、西山派浄土宗寺院、義元の同朋林阿弥、主君を弔うため阿弥陀如来を奉納、堂内に今川義元（左）、松井宗信（右）の木像が安置されている。

⑧ 戦評の松（せんぴょうのまつ）

瀬名氏俊この松の下で戦評をしたと、また旧暦5月19日今川義元の亡霊が真夜中白装束で白馬に乗り、大池の周辺を駈けるとの伝説がある。江戸時代にこれを見た刈谷の魚屋が、義元の亡霊から、他言無用と堅く口留めされていたが、ついに隠しきれず、他人に漏らした途端熱病に罹り遂に死んでしまったという話が語り継がれている。

▲初代の松

⑨ 桶狭間神明社（おけはざましんめいしゃ）

桶狭間村は1340年代、南朝の落武者によって開拓されたと云う。神明社の創建については詳でないが慶長13年の検地で「免除地」となっているので、1600年以前に祀られていた事は確実である。桶狭間合戦の時、瀬名氏俊が御酒を供えたと云われる桶が宝物として保存されている。

発行：緑区ルネッサンスフォーラム（委託：緑区役所地域力推進室）R8 3000